

中小企業地域資源
活用促進法に基づく



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

やまのべまち
山形県山辺町
が応援するふるさと名物

だんつう
山形緞通とやまのベニットの繊維製品
～江戸時代から続く繊維のものづくり～



わが市町村の
ふるさと名物は
これ!



山形県 山辺町

地域の プロフィール



◆地勢

山辺町は、山形県のほぼ中央にあたる山形盆地の南西側に位置し県都山形市の北西に隣接しています。

町の南西部は出羽丘陵の山々を擁する中山間地域となっており、大小の湖沼が点在する緑豊かな森林や湧水などが美しい自然景観をつくりだしています。

町の北東部は市街地を形成し、南北に流れる須川に向かってなだらかな東傾斜となっており、市街地周辺では盆地特有の寒暖差や肥沃な土壌を活かした稲作や果樹栽培が盛んとなっています。

古くから染色業が盛んで、染めた糸を使った織物の町として栄えてきました。山辺木綿や山辺蚊帳は品質の良さから県内外に出荷されていました。また、農家の多くが蚕を飼って繭を取っていたことや、政府が農村の副業に羊の飼育を奨励したことにより、各家庭で糸を紡ぐなどして生計を立てたことから繊維産業が発展しました。

脈々と受け継がれてきた繊維のものづくりの伝統は戦前、戦後を経てじゅうたん、ニットへと姿を変えて受け継がれています。

江戸時代から続く繊維のものづくり

◆山辺町の繊維産業の歴史

かつて、**山辺町**でつくられる木綿織物は「**山辺木綿**」として広く重宝され、染織の町として知られていました。**江戸後期**に始まり、明治期には**堅牢な染色技術**が評判となり、**地場産業に育っていきました**。当時は、山辺地区のいたるところから、木綿工場で機織る音が聞こえ、染めた木綿を空高く干している風景が見られました。



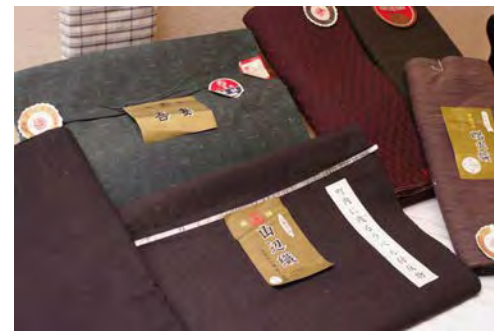
藍染め干しの風景
[昭和2年頃]



藍染め織りの風景
[昭和2年頃]



現存する縞帳



山辺木綿の反物

◆じゅうたん産業の歴史

染色の町として栄えた山辺町は、昭和8年に東北地方を襲った大寒波で深刻な産業不振となりました。当時、女性の働く場所を確保して地域を再生したいとの思いから、じゅうたんづくりが始まりました。

シルクロードを渡った織物技術を学ぶため、昭和10年に中国から技術者を招き技術の習得に励みました。それから、素足の生活様式に合わせた独自のものづくりを続けてきました。

当町で生産されるじゅうたんは、重厚な敷物用織物を示す日本古来の名称である緞通と称されます。

現在では、技術伝承の取組みの一つとして著名デザイナーなどとのコラボレーションによる新商品の開発、個人ユース向け製品の充実や海外展開を行っています。

国内唯一となる特殊技術の開発

新しいじゅうたんに豊かな光沢と艶、しなやかさを纏わせることを可能としたマーセライズ加工（化学洗濯艶出し）を昭和25年に実用化しています。この作業を行うには、原料が良く、染色に優れたものでないと耐えられないため、国内ではここだけの技術です。



手織りじゅうたん製作の様子



マーセライズ加工の様子

◆ニット産業の歴史

山辺町では、古くは農家の多くが蚕を飼って繭を取っていたことや、政府が農村の副業に羊の飼育を奨励したことにより、昭和15年頃には羊毛を各家庭で紡ぐなどして生計を立てていました。

戦時中には、県内に疎開してきた人からメリヤス技術を学び、同様に疎開してきた機械メーカーの工場があったことからメリヤス製品の編み機がつくられました。

戦後になると、寒さをしのぐための衣類が極端に不足し、需要の高まりにあわせて商業・農業など他の産業からの転業者も加わり、メリヤス産業があつという間に勃興しました。



昭和30年代のメリヤス生産の様子

サマーニット誕生の町

山辺町内のメリヤス企業が、**アクリル長繊維**を**セーター用**に**研究開発**し、昭和35年に**商品化**された「**サマーセーター**」。

それまでのセーターと言えば秋・冬に限られ、操業も半年間だけであった**メリヤス産業**が年間を通して操業が可能となるなど**大きな変革**をもたらし、やまのベニットの名を全国に広めました。





手織りじゅうたん、手刺しじゅうたん

山形緞通は、糸づくりから染め、織り、各種仕上げ、アフターケアに至る全ての工程を一貫管理のもとに生産されます。

現代の日本の住空間に合わせた製品開発に取り組み「足もとからのおもてなし」をブランドコンセプトに、デザインには「自然を取り込む」を共通テーマとして商品ラインナップが展開されています。



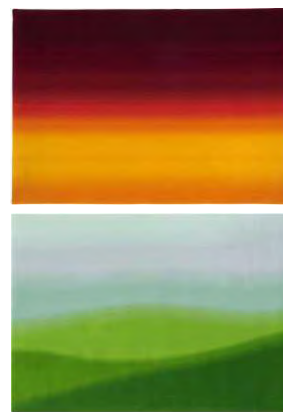
古典ライン

日本の古典を題材にした
美しい図案



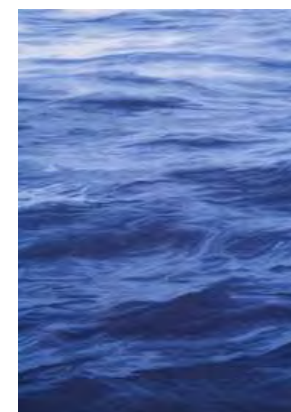
新古典ライン

和・洋どちらの空間にも合う、
新しい古典柄



現代ライン

自然が生み出す空や山の
景色を多彩なグラデーションで表現



デザイナーライン

著名デザイナーなどとの
コラボレーション商品

やまのベニット

やまのベニットの特徴は、**紡績、染色、編立、縫製**までニット商品を作るために必要な体制が**確立**され、**町内で対応**できることです。

ファンシーヤーン^{注1}使いのローゲージ^{注2}、スーツなどに使うハイゲージ^{注3}といった**多品目**を、在庫を持たず**小ロット**で、しかも**短期に納品**できる**産地内一貫生産方式**は「**山形方式**」とも呼ばれ、多くのアパレル産業やバイヤーの信頼を得ています。



注1: 種類・色・太さなどの違った糸を組み合わせで縹(より)合わせた糸のこと

注2: 編み目の粗いもの

注3: 編み目の細かいもの

山辺町の取り組み

◆展示商談会等への出展支援

山辺町では、**山形緞通**と**やまのベニツト**について、製品の品質・企画力等を積極的にPRして販売促進を図ること等を目的とする**展示商談会**への**出展費用の一部**を補助して**販路拡大の取り組み**を支援します。



◆産業観光として工場見学を紹介

山形緞通の歴史や、高い技術を有する**職人のものづくり**に触れることができる**山形緞通の工場見学**は、毎年、県内外から約2,500名が訪れて**消費者の知的好奇心**を大いに満たしています。

この、ものづくり産業を**町の産業観光メニュー**の一つとして、**全国に広く紹介**して**情報発信**を行うことで**新規顧客の掘り起し**と**知名度向上**を支援します。



山形緞通工場見学

山辺町の取り組み

◆やまのベニツトのP R・情報発信

山辺町商工会・山辺ニット同業会、町内銀行団と山辺町が協力して**山辺ニット産地力の魅力発信プログラムを実施**します。ニットの需要が高まる初冬期である**12月10日**を**いつでもニットの日**と定め、**国産ニットの積極的な着用を広く呼びかける**取り組みを実施して**やまのベニツト**をP Rします。

《関連する取組み》

- ・山辺町ニット議会の実施
- ・いつでもニットセレクション（製品展示）の実施
- ・やまのベニツトの販売会情報の発信



ロゴデザイン



いつでもニットセレクション

◆ふるさと応援寄附記念品

ふるさと納税制度で寄附をいただいた方に対する**記念品**の選択肢として、**山形緞通の商品**を登録しています。

記念品として**WEBサイト等で公表**することにより**山形緞通の商品と企業名をP R**しています。



山辺町長からのメッセージ

山辺町の繊維産業の歴史は古く、江戸時代にまで遡ります。木綿織りや紅花、藍などの染色が盛んなものづくりの町として栄えてきました。

この伝統ある繊維産業は、今日、絨毯とニットのものづくりへと変貌を遂げました。この間、山形緞通は唯一無二の独自技術を獲得するなど、その魅力を高めて世界中の要人を足元からもてなしています。やまのベニットもまた、培った技術力と新たな発想力を発揮して独自ブランドを立ち上げるなどニット業界に新風を吹き込んでいます。

山辺町の誇りであります、高品質なものづくりにかける情熱と確かな技術力をもつこの伝統繊維産業が、国内外で輝き続け多くの
人々の足元と身体を心地よく温める存在であり続けるため『**山形緞通とやまのベニットの繊維製品**』を山辺町のふるさと名物として応援することを宣言します。

山辺町長 遠藤直幸



町長の顔写真を図柄として編み上げたニットを着用